

# 青梅上成木ふれあいの森

## 活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 V

1. 実施日 平成27年8月15日

2. 観察ルート 里仁会館～都道202号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スミレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道202号～里仁会館

### A. 里仁会館～常盤橋（都道202号沿い）

- ・タカサゴユリ（高砂百合）ユリ科ユリ属の多年草で台湾原産の球根植物 都道202号沿いの所々で見られるが、ほとんどが園芸用に栽培されたものが庭逃げで自然繁殖したと思われる。
- ・ツククサ（露草）ツククサ科ツククサ属の1年草 夏を代表する植物で、山野より人里近くに多く自生し、都道202号沿いから常盤林道沿いにかけて多く見られる。
- ・ヤマノイモ（山の芋）ヤマノイモ科ヤマノイモ属の多年草で雌雄異株の蔓性の多年草 7月の観察で見られたオンドコロと同じ仲間、これも山野より人里近くで多く見られる。



タカサゴユリ



ツククサ



雄花—ヤマノイモ—雌花

- ・ダンドボロギク（段戸檻樓菊）キク科タケダグサ属で北米原産の1年草
- ・ベニバナボロギク（紅花檻樓菊）キク科ベニバナボロギク属でアフリカ原産の1年草  
ダンドボロギク、ベニバナボロギクとも花は筒状化で全開せず、秋の終わりがろタンポポと同じように白い綿毛が風で運ばれる。都道202号沿いから常盤林道沿いにかけての所々で見られる。
- ・ミズヒキ（水引）タデ科タデ属の多年草 山野から人里近くにかけての道端や草地などで見られる。これも都道202号沿いから常盤林道沿いばかりでなく活動エリアの随所で見られる。
- ・ハナタデ（花蓼）タデ科タデ属の1年草 まだ蕾状態が少し見られるだけだが、これからミズヒキやイヌタデなど同じタデ科の花が活動エリアの随所で見られるようになる。



ダンドボロギク



ベニバナボロギク



ミズヒキ



ハナタデ（蕾状態）

- ・里仁会館近くの都道 202 号沿いには植栽の植物だが庭逃げで野生化したと思われるキクイモ（キク科）の黄色い花が所々で咲いており、ヤマブキ（バラ科）の狂い咲きも見られる。
- ・これも植栽の植物で前回の観察では少ししか見られなかったが、たくさんのコバギボウシ（ユリ科）が今回は都道 202 号沿いをきれいに彩っている。
- ・ダイコンソウ（バラ科）がまだ都道 202 号から常磐林道にかけての随所で咲いており、同じ黄色い花のキツネノボタン（キク科）も所々で見られる。
- ・蕾状態のキツネノマゴ（キツネノマゴ科）が都道 202 号から常磐林道にかけてポツンポツンと見られる。

## B. 常盤橋～大滝（常磐林道沿い）

- ・ノブキ（野藨）キク科ノブキ属の多年草 活動エリアの随所で見られ、花は地味な筒状化だが放射状に並ぶそう果（瘦果）はとても個性的。
- ・イラクサ（刺草・蓴麻）イラクサ科イラクサ属の多年草 常磐林道沿いで開花状態のイラクサがいくつか見られたが、イラクサが群生状態で見られるイラクサの道ではまだ開花しているものは少ない。
- ・常磐林道沿いには名前の同定が難しいキク科のヨメナ属あるいはシオン属と思われる野菊の花が所々で見られる。



花ーノブキー実



イラクサ



名前不詳の野菊

- ・シュウカイドウ（秋海棠）シュウカイドウ科シュウカイドウ属の多年草 ベゴニアに似ており、ヤマトベゴニアの別名がある。まだ花数は少ないがこれから常磐林道沿いでたくさん見られるようになる。
- ・ヌスビトハギ（盗人萩）マメ科ヌスビトハギ属の多年草 花後の実が盗人の足跡に似ているのでこの名がある。常磐林道沿いの随所に自生するが、これからは実が花と一緒に見られるようになる。
- ・イタドリ（虎杖）タデ科タデ属の雌雄別株の多年草 山野から人里近くにかけての道端や草地など広く自生しており、常磐林道沿いばかりでなく活動エリア内の他の場所でも多く見られる。
- ・ガンクビソウ（雁首草）キク科ヤブタバコ属の多年草 筒状の頭花がキセルの雁首に似ていることからこの名があり、これから常磐林道沿いの所々で見られるようになる。



シュウカイドウ



ヌスビトハギの実



イタドリ



ガンクビソウ

- ・成木浄水場の少し先、左手の岩場のイワタバコは前回の観察時では雑草やシダ類の繁茂による場荒れがひどく花芽が見られなかったが、その後いくつかが開花したようで、今回の観察でまだいくつかの花が咲き残っているのを確認。
- ・前回7月の観察のとき常盤林道沿いで開花しはじめていたボタンヅル（キンポウゲ科）は、今回は蔓を伸ばして花を咲かせている。
- ・前回、アジサイの道で開花状態のヒヨドリバナ（キク科）を1株だけ見かけたが、今回は常盤林道沿いでもいくつかの自生を確認。

### C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スマレの道～リンドウ坂

- ・**ミヤマタニソバ（深山谷蕎麦）** タデ科タデ属の1年草 イラクサの道に入った沢沿い、サエズリの谷、そして常盤林道沿いなど、やや薄暗い湿った場所でたくさんの白い小さな花を咲かせるが、今年は例年に比べ自生数が少ないように思われる。
- ・イラクサの道入口近く、右手の岩肌のモニタリングポイント①とイラクサの道の途中、沢沿いの左手の岩肌のモニタリングポイント②のイワタバコ（イワタバコ科）はまだいくつか花が残っているが、花はそろそろ終わり。
- ・イラクサの道入口近く、モニタリングポイント①のイワタバコの更に少し先、同じ右手山側斜面のモニタリングポイント①のツルリンドウは順調に生育しており、3つの蕾が付いているのを確認、ひとつは膨らんでいるので間もなく開花すると思われる。
- ・**マルミノヤマゴボウ（丸実の山牛蒡）** ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属の多年草 前回、開花状態だったサエズリの谷のマルミノヤマゴボウは実が赤くなっていた。
- ・**ザトウムシ（座頭虫）** 植物ではないが、サエズリの谷で休憩中、小蠅を捕食中のザトウムシを撮影、節足動物門鋏角亜門クモ綱ザトウムシ目に属し、ジメジメした暗い山野でよく見かけるクモに似た虫で、別名足長グモ、メクラグモとも呼ばれている。
- ・前回7月の観察のときサエズリの谷で花後の実が付きかけたトチバニンジン（ウコギ科）が1株あったが、その後、実が枯れ落ちてしまったようで、今年は残念ながら赤い実が見られなかった。



ミヤマタニソバ



実が赤く熟したマルミノヤマゴボウ



ザトウムシ

- ・サエズリの道からスマレの道への途中、支沢の出合い付近の左手のモニタリングポイント③のイワタバコの花は終わりですべて散っていた。
- ・前回7月の観察で里仁会館近く成木川対岸に群生しているニガクサ、あるいはツルニガクサと思われるシソ科の花を見かけたが、今回スマレの道（日向）で同じものと思われる1株の自生を確認。萼の周囲に産毛のような毛（腺毛）の生え方に違いがあるが、やはりどちらか同定するのは難しい。
- ・**タンナサワフタギ（耽羅沢蓋木）** ハイノキ科ハイノキ属の落葉小高木 スマレの道（日向）の谷側でたくさんの実をぶら下げており、秋になると藍色に熟す。
- ・スマレの道（日向）のモニタリング対象であるセンブリ（リンドウ科）は小さい株の1株が枯れているのを確認、これは5月の観察時、路面で踏み潰されそうな場所に生えていたのを上方の斜面に移植した1株で移植の難しさを感じる。他の10株は順調に成育しており、背が高い2株は秋に開花が期待される。
- ・今回も東京都環境保全看板近く、リンドウ坂のモニタリングポイント②のツルリンドウをカウント、前回同様28株を確認。また今回22ヶの蕾を確認し、中には膨らんだ蕾もいくつかあり間もなく開花か。

- ・イチャクソウ（一葉草）イチャクソウ科イチャクソウ属の多年草 東京都環境保全看板から少し下がった左手斜面で今年1株が花を付けたが、今回、象の鼻のような長い花柱（雌しべ）が突き出した状態で、秋には黒く変色した実が見られるか、今後とも継続的に要観察。
- ・ツルリンドウ（蔓竜胆）リンドウ科ツルリンドウ属の蔓性の多年草 今回アジサイの道に向かう途中のリンドウ坂の斜面で大きく蔓を伸ばし、いくつかの蕾を付けた1株のツルリンドウを見つけ、モニタリングポイント③として周囲を枝切れで簡単に囲い、小さな木片の名札を取り付ける。



名前不詳のシソ科の花



タンナサワフタギの未熟実



花後のイチャクソウ



リンドウ坂で新たに見つけたツルリンドウ

#### D. アジサイの道～涸沢出合い（大滝作業道入口）

- ・マツカゼソウ（松風草）ミカン科マツカゼソウ属の多年草 前回、アジサイの道でいくつか咲いているのが確認されたが、常盤林道をはじめ活動エリア内でもたくさんの小さな白い花が見られる。
- ・アマチャヅル（甘茶蔓）ウリ科アマチャヅル属で雌雄異株の蔓性の多年草 蔓に星形の小さな変わった花をたくさん付け、秋には丸い緑色の実ができる。常盤林道をはじめ活動エリア内の他の場所でも見られるが、アジサイの道に多く自生している。



アジサイの道のマツカゼソウ



アマチャヅルの花

#### E. 涸沢出合い（大滝作業道入口）～大滝（常盤林道沿い）

- ・ミツバベンケイソウ（三葉弁慶草）ベンケイソウ科キリンソウ属の多年草 涸沢、大滝間の成木川沿いの大きな岩の上に自生しているミツバベンケイソウは蕾が大きく膨らんできた。
- ・モミジガサ（紅葉笠）キク科コウモリソウ属の多年草 常盤林道沿いで蕾状態を確認。あまりきれいな花とは言えない地味な花で活動エリア内の他の場所でも見られる。
- ・キンミズヒキ（金水引）バラ科キンミズヒキ属の多年草 タデ科のミズヒキに咲き方が似ているが別種の植物で、金色の花を付けるミズヒキということでこの名がある。
- ・アキノノゲシ（秋の）キク科アキノノゲシ属の1～2年草 山野から人里にかけての所々で見られる。常盤林道沿いの所々で見られるが自生数は少ない。



ミツバベンケイソウの蕾



モミジガサの蕾



キンミズヒキ



アキノノゲシ

- **クサギ (臭木)** クマツヅラ科クサギ属の落葉小高木 葉や枝に独特の臭気があるのでこの名がある。常盤林道の成木川対岸にいくつか見られたが、この辺りでは自生数が少ない。
- **ナンテンハギ (南天萩)** マメ科ソラマメ属の多年草 小葉が南天に似ているのでこの名がある。常盤林道沿いの草地の所々で見られるが自生数は少ない。
- **アブラチャン (油漑青)** クスノキ科シロモジ属で雌雄異株の落葉低木～小高木 種皮や樹皮に油成分が含まれるためこの名前があり、春に淡黄色の花が咲き、秋になると実は黄褐色に熟す。常盤林道沿いでまだ青い実を付けたアブラチャンの自生を確認。



クサギ



ナンテンハギ



アブラチャンの実

- 常盤林道の涸沢出合いから大滝間の駐車スペース近く、山側岩肌のモニタリングポイント④のイワタバコはまだ多くの花が咲き残っていたが花はそろそろ終わり。岩盤部の上段から中段にかけては乾燥化で岩肌がもろく崩落した所もあり、岩肌の上から下方に流れ落ちたものが林道の端で生育して開花したものも多く、今後、岩肌全体に平均して繁殖することができるかどうか懸念される。

### 3. 総括

- モニタリングを実施した4ヶ所のイワタバコはそろそろ花の時期が終わり、前回まで観察してきた各モニタリングポイントのデータを今後の観察の参考資料とする。
- モニタリングを実施した3ヶ所のツルリンドウは引き続き生育状態と開花、結実について継続的に要観察。
- モニタリングを実施したスミレの道(日向)のセンブリについても来月以降も引き続き生育状態と開花について継続的に要観察。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部